

学童保育大阪市の守れ

大阪市議会教育子ども委 長岡市議が力説



長岡ゆりこ市議

10日に開かれた大阪市議会教育子ども委員会で、日本共産党の長岡ゆりこ議員

は、少人数学級の実現や不登校児への支援、保育園への正規職員の配置はじめ、子どもたちの成長を支える教育条件の整備を求めて質問しました。その中で、新型コロナウイルスの感染拡大の中で開所している学童保育の現状を示し、市に対応を求めました。

長岡氏は、小学校が休校になる中、学童保育の関係者は、子どもたちのこと、保護者の就労を支える学童保育の意義を考えて、子どもたちを受け入れていると強調。「学童保育に関わる人が発症すれば、学童保育がつぶれてしまうのではないか」との不安を抱えなが

ら、苦渋の選択で開所しているところも多いとしました。

消毒液もマスクもなく、寒くても入り口の扉を開けっ放しにして換気しながら保育している施設もあると紹介。「次は我が身」と発症し、「次は我が身」と思いながら、子どもたちのために踏ん張っている皆さんを大阪市がぜひ守ってほしい。初めての事態を職員と議員、市民が一丸となって乗り越えるとき」と力説しました。